

氏名	宮 崎 雅 史		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 626 号		
学位授与の日付	昭和61年 9 月30日		
学位授与の要件	医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	癌患者血清中の免疫抑制物質の除去に関する研究 第1編 二重濾過血漿分離交換法による免疫抑制物質の除去につ いての実験的臨床的検討 第2編 多孔性ガラスビーズ吸着体血漿灌流による免疫抑制物質 の除去についての実験的検討		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 木村郁郎	教授 太田善介

学位論文内容の要旨

癌患者血清中の免疫抑制物質の除去は癌の免疫化学療法の効果をより高めるために重要である。この目的のために二重濾過血漿分離交換法(DFPP)および多孔性ガラスビーズ吸着体(GBA)の免疫抑制物質に対する選択的除去能について検討した。

globulin以上の分子量を持つ免疫抑制物質は、平均pore size 0.02μ の血漿濾過膜を用いたDFPPにより選択的に濃縮除去可能であった。DFPP施行前後で、リンパ球幼若化反応に対する患者血清の抑制効果は減少し、PPD皮膚反応は62%(8/13)の症例で改善した。また、50%(11/22)の症例で全身状態の改善が見られた。

DFPPで除去困難なalbumin以下の分子量を持つimmunosuppressive acidic proteinや α_1 -antitripsinといった免疫抑制物質は、孔径 100\AA で表面をアミノ化したGBAで吸着除去可能であり、血中濃度を50%に減少させうることがわかった。

以上のごとく、DFPPとGBA血漿灌流により癌患者血清中の免疫抑制物質の一部は除去可能であり、これらの血液浄化療法は、癌の集学的治療の一環として有効なものとなりうることを示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は癌患者血清中の免疫抑制物質の除去を目的として、実験的ならびに臨床的に検

討したものであって、二重濾過血漿分離交換法および多孔性ガラスビーズ吸着体を用いてその除去能について研究した結果、重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。